

福島の花に魅せられて

私は気仙沼に来て、漁港・海岸と集落、夏の夏祭り、冬の雪景色に魅せられました。そして、福島県に来て、春は何と言っても“桜”です。

天気予報では、桜前線は、九州から青森・北海道へ北上すると言います。しかし本当は、桜前線は郡山で枝分かれして、会津・只見・新潟へと西へも進むのです。全国第3位の面積をもつ福島県（1位は北海道、2位は岩手県）では、浜通りから奥会津まで、約1ヵ月間に渡って、満開の桜を見ることが出来ます。

桜は、川の堤防（千本桜）・山々・寺社の参道・街路（桜並木）・公園に群で咲くのが一般的です。しかし、どちらかと言うと私は、1本だけで咲いている古木の桜が好きです。また、私は花見山（福島県）のような観光客が押し寄せる場所ではなく、地元の人しか見ないで、ひっそりと咲き誇っている桜が好きです。

福島県でも、阿武隈山地・奥羽山脈・会津・只見地方の長く厳しい冬を耐えた人達にとっては、春は、何にも増して歓喜の季節です。また、菜の花・こぶし・レンギョウ・梅・桃・桜等の花々が、4月になると一斉に咲き誇ります。福島県の春は、正に三春・四春・五春で、桃源郷そのものです。

福島の花について、考えてみました。

- ① 東北の各地には、桜並木も多いが、樹齢3百年以上の古木の桜が各地にある。
- ② 地元の人達にとって、桜は生活の一部なので、桜は眺めるものである。
- ③ 地元の花見には、外からの観光客は余り来ない。よって、どこかの上野公園のように、ブルーシートで場所取りなんかはしない。
- ④ 地元の人達にとって、花見は「花より団子」である。よって、どこかの上野公園のように、飲んで歌って騒ぐようなことはしない。

（桜には）美しさを越えて、闇がある（民族情報工学研究家 井戸理恵子さん）

「サクラのサは農事をつかさどる神、クラは物を納める場所の意です。桜は「農耕の神が宿る木」なのです。つぼみが膨らむと田を鋤く準備をし、満開になれば山菜が出る時とわかる。桜は農作業をいつ始めればいいかを測るバロメーターであり、先人たちは花の咲き方、散り具合を見て豊作かどうかを占ったのではないのでしょうか。

それが、平安末期のころから、散る花に死や無情のイメージが重なって来たのです。

“願はくは 花の下にて 春死なむ そのきさらぎの 望月のころ”

と歌った西行が、73歳の生涯を閉じたのは、1190年2月16日（旧暦）でした。桜には、人を不安にさせ、狂わせる一面があるのかもしれませんが。桜は美しさを越えた存在です。闇があるのです。浮かれて騒ぐだけが花見ではありません。」（「朝日新聞」16年4月10日付け）

【日本三大桜の一つ 滝桜（三春町）】



【開花の時期が水稲の種まき時期だったので 種まき桜（相馬市）】



私のメールアドレスが、変わりました。

p-mia0877@nifty.com です。